

令和 7 年度園評価

目標達成	園の理念、方針、目標を新職員も含め園内研修で再確認、共通理解をすることで保育課程カリキュラム等、日頃の保育に意識した関わりを心がけ、又、令和 7 年度も引き続き主体的保育、環境構成に取り組む姿勢が見られた。又、令和 6 年度より研究テーマに愛着を掲げ研究発表に向けて職員全体で目標をもって参画したことでより目標達成を得られた。
保育士活動	指針の中での主体的な活動、対話的な学びという事を意識し保育者が主導的に何かをやらせるのではなく、自発的・意欲的に関われる環境構成を考え、言葉かけ等も意識した保育活動を行っていく。不適切な保育をしていないか振り返りをしていきながら全職員で共有し保育を心掛けていく姿勢・意欲を感じた。
環境整備	令和 7 年度も環境整備に関しては引き続き室内環境・動線や玩具等工夫を凝らしていた。コーナー保育の見直しも随時各クラス行い動線や安全面の見直しを話し合っている。室外の環境（園庭・パティオ・2 階テラス）も令和 5 年度結成からの環境構成チームで定期的に話し合いをして安全面や遊びやすい環境作りに努めた。
衛生・健康	令和 7 年度は各行事がコロナ禍の前の状況に戻りつつある中で感染防止には引き続き対策は行い（検温、手指消毒等）他の感染症等の拡大につながらない様引き続き対策を取った。コロナ禍で免疫力も落ちたのか他の感染症に罹患する傾向があった。
保護者支援	令和 5・6 年度は保育研究テーマが「愛着」ということで保護者支援も兼ねて外部講師を招いて講演会を行ったが 7 年度に関しては中央大会で発表もあったので講演会活動は行わなかった。気になる子や気になる家庭に関しては保護者面談を通して家庭背景を聞き、園と家庭と協働で関わり方を共有することで子どもの育ちに大きく影響する事を伝える。又、虐待等の早期発見など子ども達の様子をよく見て報告をする体制は出来ていた。子育ての悩みや地域の方の保育園に入れたい相談も電話や来園で対応した。又、関係機関との連携も取れていた。
地域との関わり	園目標である「あいさつのできる子」は散歩や来園される方や地域との関わりの中で積極的に出来ていた。令和 7 年度も近隣の小・中・高校からも依頼があった場合は受け入れをした。又、地域の老健施設からも招待があったのでハロウィーンの時期やクリスマス会に年長クラス園児が参加をして交流が密に行われた。散歩や園外保育（消防署訪問等）を通して地域の方との交流も盛んに行っていた。
研 究	令和 7 年度も「保育実践研究」として研究チームを中心に主体的な保育環境構成に取り組み、全体園内研修や研究チーム研修で学び合いの時間を持った。「愛着」をテーマにした研究発表が私立保育園連盟の中央大会にて当園の発表があり研究チームで臨んで講師や助言の先生の評価も高くテーマ自体が「愛着」というテーマを研究している現状に多くの園が昨今の親子関係・保育者との関係等悩みがあるという中で興味・関心も高かった様に思える。深いテーマなので職員も保護者も考えるきっかけとなったように感じる。今後も研究を重ねながら学びを深めていく要素が出来ているので継続していきたい。 又、保育環境チーム（パティオ・テラス・砂場・園芸・固定遊具アスレチック）も 6 年度に引き続き定期的に話し合いを持ち環境の見直しに取り組んだ。しかし、中々時間が取れない事が課題でもあるが各チームで取り組んできた事を共有出来たことは園としても大きな成果だった。今後も保育研究チームを中心に全職員で共有し参画できるようにしていく。

職員処遇	有休の5日以上の消化、週休は年度内で確実に消化するよう声かけをした事で令和7年度も殆どの職員が有休・週休を消化していた。例年の課題ではあるが休憩時間が中々取れない状況にあるのでより工夫をして休憩が取れる環境を今後も考えていく。処遇面では、(処遇改善Ⅰ)は殆どの職員に支給、(処遇改善Ⅱ)はキャリアアップで専門リーダー等が任命を受け処遇を受けた。又、(処遇改善Ⅲ)も殆どの職員が受給した。制度が変わり名称が「処遇改善手当区分1・2・3」と変更となる。又、国の公定価格の引き上げで令和7年度の遡及手当も支給した。単年度だけの支給ではなく継続して支給されることが条件なので職員の処遇に反映されるように運営をしていく。 公定価格の引き上げは喜ばしいが配置基準での支給額なので配置基準以上に職員を配置してる場合の対応策を今後も改善してもらいたい。
総括	当園の評価としては職員が理念に基づき、感謝・感動の気持ちを持った職員が多いと感じる。又、子ども達の良いところを見つけ自己肯定感のある子に育てるという意識を持って保育をしている職員も多いと感じる。令和7年度も日々の保育、行事の準備、カリキュラム作成、会議等に追われ、ゆとりや余裕がない様にも見えた。行事等の見直し等も考えて今後も話し合いを進めていく。又、ICT化でコドモンシステムを導入した事で日誌もドキュメンテーション日誌に移行しながら写真や動画を配信することでより保育の見える化が進んでいた。0～2歳児は手書きでの連絡帳は配布せずコドモンにての配信とするが日々の保育を定期的に動画や又、令和7年度も不適切保育等、日々の保育を振り返ることの重要性、保育環境（人的環境・物的環境）を振り返ると共にこどもを真ん中に寄り添う保育、又、保育士の余裕、ゆとりがもてる働きやすい環境作りを考え、こども達・職員・保護者が建設的に意見を言い合える環境、雰囲気をつくることで、こども達や職員が笑顔あふれる保育園をみんなで考えていきたいと思っています。